

最後に、地域の魅力づくりにおけるチーム系魚川の役割は大変重要である。ぜひともあらゆる検討をしながらチーム系魚川に活躍していただきたいとお願いをしまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を3時30分とします。

午後3時16分 休憩

午後3時30分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

1つ目は、夢を叶えて若者や女性が輝くまちづくりについて。

人口2万5,000人の島根県江津市、山陰地方の小さな都市が近年注目を集めています。そのきっかけとなったのが2010年度から開催しているビジネスプランコンテスト、UIターン者などの創業支援をやったもので受賞者が地域資源を活用した事業を立ち上げるとともに地域の新たな息吹を吹き込み、よい循環が生まれています。企業誘致にも限界がある。だったら若者にも魅力ある働く場をつくり出す人材誘致を考え、市では地域資源を生かしたビジネスによって地域課題の解決につなげていくビジコンの開催を検討。東京の起業支援NPOのアドバイスなども得ながら仕組みをつくって行きました。1回目は全国から25件、2回目は23件などの応募があり、今では商店街に、この数年で20以上の店舗が開業するなど新しい風が吹き込んでいます。ビジコンをきっかけに起きた化学反応がこれからまちをどう変えていくのかが注目しているとありました。

そこで、系魚川市全体を考えた場合、若者と女性が輝く系魚川にするために以下項目により伺います。

- (1) ビジネスプラン及び地域活性化プランコンテストの系魚川開催について伺います。
- (2) 若者総合政策の策定及び系魚川若者会議の方向性について伺います。
- (3) 系魚川留学・孫留学・孫ターン及び里親制度の確立について伺います。
- (4) プロジェクトマネージャーの誘致、派遣、全国公募、移住計画について伺います。
- (5) ジオサイトプラス芸術アートによる地域振興策及び子どもゆめ基金の創設について伺います。

(6) 糸魚川市女性活躍計画の策定と女子高校生による市役所課外活動チームの結成について伺います。

(7) 小さな地域（糸魚川市）を強くするブランドづくりについて伺います。

(8) 公契約条例の制定について伺います。

2、筒石・徳合地区における治山事業について。

(1) 補修工事及び点検調査について伺います。

(2) 斜面監視システムについて伺います。

(3) 安全対策協議会への対応について伺います。

(4) 傾斜計データ収集と耐震化基準について伺います。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、当市においては、創業支援ネットワークを活用して若者や女性の新規ビジネスプランの実現を支援してまいります。

また、地域づくりプランの作成を進め、報告会の開催などにより地域活性化の情報共有を図ってまいります。

2点目につきましては、チーム糸魚川の若者会議において30年先も持続可能なまちづくりについて若者の視点で意見交換を行い、提案を行うことといたしております。

3点目につきましては、UIターンの1つとして、孫世代の移住も研究したいと思っておりますが、里親制度については、課題も多く、早急なところは無理ではありますが、研究をしていきたいと考えております。

4点目につきましては、現時点ではプロジェクトマネジャーの設置は考えておりません。

5点目につきましては、本年度から匠の里プロジェクトとして、手づくり工芸作家にターゲットを絞った移住促進の取り組みを始めており、その中で地域の活性化につなげていきたいと考えております。

なお、子どもゆめ基金につきましては、設置する考えは今のところありません。

6点目につきましては、今年度、女性活躍推進計画の内容を含んだ第2次男女共同参画プランを策定してまいります。

また、糸魚川広域商店街では、個店の魅力アップ女性の会が賑わい創出委員会に参画しているほか、市役所内では女性職員によるプロジェクトチームを発足させ、女性の活躍に関する調査・研究を行っております。

7点目につきましては、イメージや付加価値を高めて知名度を上げていくことがブランドづくりにつながると考えております。

8点目につきましては、公契約条例を制定する予定はありません。

2番目の1点目につきましては、本年3月1日に地元説明会を行い、3月末から補修工事、点検

調査に着手しております。

2点目につきましては、ワイヤーセンサーを取りつけ、異常を知らせるシステムを設置することといたしております。

3点目につきましては、県と市が一緒になり、情報提供、説明に努めてまいります。

4点目につきましては、13カ所のデータ収集を行い、県、市及び安全対策協議会で情報を共有してるところであります。

のり枠工法には、耐震化基準がございませんが、当地区では砂岩・泥岩互層の受け盤構造であるため、地すべりは考えづらいと県から説明をされております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますのでよろしくご願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

1番目のビジネスプランのほうでございますが、糸魚川市では創業支援ネットワークを初め、やっていくということなんですが、この創業支援事業、取り組んで補助金はどんだけ使われて、今後どうやっていくのか教えていただきたいと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

お答えいたします。

創業支援の補助金につきましては、今、ネットワークのほうは市内の金融機関、商工団体、それから行政、金融機関を含めましてネットワークをつくっておるところでございます。特に商工団体のほうは、創業支援計画の中で補助金が生み出されてきているというところがございます。金額について、今ちょっと承知しておりませんので失礼しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

第1回目で説明させていただいた島根県の江津市、これもやっぱり総合計画の全員協議会でもありましたが、ジオパークだけでなく別の取り組みが必要だという意見がありました。中心商店街を初めいろいろな形でビジネス、先ほど伊藤議員よりもありましたが、健康、福祉、医療並びに午前中にありました観光産業、第1産業も含めていろいろなビジネスを考えられる場が出てくると思うんです。これを全国公募して糸魚川で開催するような、そういう若者移住、起業などの支援、女性も含めて考える必要があると思うんですが、今のなりわいネットワーク、ものづくりネットワークでこの前ありましたが、やっぱりそういう感覚で全体を見て、糸魚川をどうすればいいかというの皆さん全国から聞く場を必要だと思うんです。そのプランを提案していただく。そういうのを私

は必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今回の五十嵐議員の主題の「夢を叶えて若者や女性が輝くまちづくり」、この主題は総合戦略のナンバー3のテーマを捉えていただいたわけでありまして、広く捉えますとやはり総合戦略をいかにスピーディーに取り組んでいくかというところが全ての部分に共通するんだらうなというふうに考えております。

それから、江津市の件でありますけれども、確かにビジネスプランについて全国に公募をかけて全国から募集を行い、賞金があったり、また提案された事業を創業に結びつけていく支援策なども用意されているわけでございます。

当市におきましても、今年度からクラウドファンディングの活用支援補助事業を取り組みました。これにつきましては、市内の事業者がいろんな創業・事業に着手しようとしたときに資金確保をどうするかというところを全国の皆さんに公募をして、その事業に興味がある方については、資金提供をしていただくと。資金提供の仕方も何パターンがあるんですけども、そのようなことで少しではありますけども、クラウドファンディングを通じながら全国に糸魚川市の事業の魅力を発信し、興味を持っていただくというところは、今年度から少し手がけさせていただいておるところであります。

それから、ビジネスコンテストにつきましては、去年は市内の、ある企業でございますけども、ビジネスコンテストを既に実施された企業もでございます。そのコンテストを通じて賞金を出してあるわけでありまして、その後のフォローについてももう少し反省をせんきゃならんというふうな企業側のお話も聞いておるところでございます。少しずつではあるんですけども、取り組み初め、動き出しているかなという感じしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、ある企業でもやって、大学とも連携しながらいろいろな形でビジネスプランを発案していただくといったことを実践してるんですね。それもやっぱり市とタイアップしながら各企業等も一緒になって、さっき出ました大学との連携、それと3つの高校ありますんで、3つの高校から白嶺高校の、この前、校長先生からありましたが、ビジネス計画も今、授業の中にあるということなんで、やっぱりタイアップしながら私はやっていくべきだと思うんです。その辺やっぱり自分た、井の中の蛙でないんですが、全国的に世界を見て、先ほど健康産業の中で医療面でありましたが、今、第4次産業革命になってるんです。AI、人工知能も含めてロボット化される。そういうのをひっくるめて、ぜひとも糸魚川にいろいろな形で誘致していただきたいと思うんですが、その辺も含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

ビジネスコンテストを使って、目標というよりもビジネスコンテストが1つのきっかけとなって地域おこしにつながっているんだらうなというふうに考えております。今、議員がお話ありましたように海洋高校の生徒の活躍もそうでありますけれども、いろんなきっかけを、また我々行政マンがそういうきっかけを、チャンスをとどのように受けとめて、いろんな部署の中で活用していくかという、そういう感性も必要になってきている時代でないかなというふうに感じっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、それがやっぱりチーム系魚川だと思うんです。ジオパークはジオパークで普及していつてもらわんなんですけど、その別なターゲットも含めて、掘り起こしてどう系魚川を活性化させていくか、それはやっぱり必要だと思います。

それで、北海道の帯広市で十勝とも関係あるんで、十勝イノベーションプログラムと。これもいろいろな形で十勝人チャレンジ支援事業ということでやってられるんですが、これも全国公募をされて、新事業を層厚して創業・起業好循環を生み出している。そこで、十勝のイノベーションエコシステムというシステム、仕組みづくりができると。やっぱりそれぞれ市の特徴はあると思うんですが、そういうのも含めてさっきのクラウドファンディングでないですが、いろいろな形でやっていただきたいと思うんですが、行政も視察へ行っていろいろな形で勉強して系魚川をどうすればいいかというのを考えたと思うんですが、その辺も含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

五十嵐議員のご質問は、今まさに地方創生の大きな実の中で、まち・ひと・しごとと言ってるわけですので、どうしても雇用面を考えずには考えられないことなんだろうというふうに思っています。クラウドファンディングにしましても、創業支援にしましても、移住・定住という面を考えましても、やはりこちらへ来て新たな仕事につくとかということになりますと、仕事を始めたりも含めましているんな形で応援するものが必要なんだろうというふうに思っています。今の創業支援につきましても、それぞれのまちの取り組み方はいろんな名前がありますけれども、系魚川においてもこれまでの制度をより使いやすいものにとすることで2つの制度を見直して、特にUターン、Jターン等も含めて使いやすい制度を準備しているという状況でありますので、やはり雇用面については、ここにいる人、あるいは外から来てもらう人、全ての皆様に利用しやすい制度にしていく必要があるんじゃないかなというふうに思っておりますので、今後ともまた制度、今のものありきということでなくて、より利用しやすい制度を準備していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に糸魚川全体を考えながらやっていただきたい。

それと若者会議、今回の予算で載ってるんですが、これもどういう方向でやっていただけるのか。昨年の12月にもいろいろな形で載ってるんですが、愛知県の新城市ですか、これも若者条例制定だとか、若者議会の設置、若者総合政策策定、高校生が地方創生に取り組んでいる。この辺もひっくるめて、やっぱり大学がないんだから地元の3つの高校からいろいろな形でやっていくべきだと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

若者だけの計画というのは、現時点では考えていないわけですがけれども、先ほど斉藤課長が話したとおり総合戦略の3番目の基本目標というのが夢を叶えて若者や女性が輝くまちづくりということで、この項がある意味、若者向けの政策でないかなと思ってます。

ただ、そういう中でやはりこれからの糸魚川を担っていく若者の声を聞くということは、本当に大切なことと考えております。具体的には、全庁的にいろんな機会を捉えて話を聞くことだとは思ってますけれども、今年度実施するチーム糸魚川での若者会議もその1つの試みかなと考えております。現在、チーム糸魚川のほうから対象となる若者を選出していただいて、人選のほうを進めておりますけれども、おおむね35歳以下の若者15人程度で構成し、30年先も持続可能なまちづくりに向けて、意見・提言をいただきたいと考えております。

また、今回の取り組みの結果を見る中で、さらに拡大していけるのか、当面継続していくのか、そういったところも検討していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

一歩進んだんか、半歩進んだんかわかりませんが、15人でこれからやっていくんですけど、この中に女性が何人おられるのか、それと市内だけでなく企業の方々もひっくるめてチーム糸魚川からなんだろうから、女性も入れていただきたいと思うんですが、この中に入っていますか。今、長岡市でもやってる、燕市でも若者会議、さっきの新城市いろいろなところでやってますよね。長野県小布施町の若者会議、これはやっぱり未来の地方創生モデルと言われてて、小布施はいろいろな形で小布施セッションだとかいろいろな形でやってる。若者を集めて、やっぱり全国から来ていただいて100人を一堂に会して何グループに分けて小布施にまつわる小布施をどうするかを考えてもらってるんですよね。2泊3日ぐらいの、そのぐらいの規模で最初からやってくれちゃいけないんですけど、私は尻すぼみしていくと思うんですが、最初15人から始まって拡大しようなんてなかなか

できないと思うんですが、その辺は女性も含めていかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

まだ人選のほうを進めている最中ですので、最終的な女性の数というのは決まっておりません。当初の目標では、男女半々ぐらいにしたいなという気持ちはありましたけれども、各団体から上ってきてるのを見るとやはりちょっと男性のほうが多目という形になっております。ただ、いずれにしても女性は最低でも5名程度は入れていきたいと思っております。

それから、確かに小布施町での取り組みというのも聞いておりますけれども、やはりこの糸魚川市の将来を考えるという中では、まずは糸魚川市に住む若者の意見、そこからスタートする中で、次の方法としては、やはり小布施のような外の方の意見も若者同士で話し合っていて聞くということもまた1つの策でないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

最低でも15名中5人の女性を入れていただく。私は女性がやっぱり必要だと思います。

それと第2段階で小布施のほうに行く、それいつになるかわからなくて、私は早くやってもらいたいんです。やっぱり若者会議に予算上げたんで順調にいったら、もう提言も含めてやってるかなと。遅いんですよ。6月だから予算通って、遅いと言わんでしょうけど、自分らとしては。いわゆる地方創生としてやっぱりやっていくためには必要だと思うんですが、その辺も含めて早くやっていただきたい。

それと今回、補正で上ってきた若者の力による地域活性化交流事業補助金、6月補正で100万円、これはこの若者会議だとかいろいろな形とは関係ないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

今回の若者会議のほうとは、直接は関係はありません。

ただ、市内の若者の力を借りて糸魚川のいろんな魅力を引き出すイベント等、テーマが自然とかあるんですけど、そういったものを使っての事業を若者に積極的に取り組んでもらいたいということで、今回、提案させてもらうものになります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

それは総務文教常任委員会でやっていただきたいと思います。やっぱり若者会議なんだから糸魚川をどうすればいいかというの、魅力とか全体を考えればそれとも関連性出てくると思うんですが、しっかり妙高市も未来をつくる若者会議開催2回、それで大学生等の若い力を活用した地域活性化推進、これとどうせばらばらでリンクしていないんでしょうけど、大学生とかも含めて高校生の意見も聞く、先ほどもJK課ですか、福井県の鯖江市でやってる女子高校生も入れながらやってる会議なんですが、その辺と絡めて若者会議どうやっていくつもりなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

若者会議につきましては、先ほども説明したとおり、おおむね35歳以下の若い人たちの声を聞いていくと。やはりこれからの糸魚川市を担っていく若者の声をいかに施策に反映するかというのが大きなテーマでないかなと思ってます。いただいた提言については、何らかの形で施策に反映できるようなものであればしていきたいと思ひますし、予算化についても考えていきたいと思ひております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

本当にいいものにしていただきたいと思ひますし、島根県の海士町、17日のときに上越で町長が来て、講演やってますが、やっぱり海士町がいろいろな形で取り組みされてる大学生を呼んだり、中学生、高校生を島に招待して、それが島留学ですか、糸魚川留学とも絡めて、中学生、高校生の男女とも島と一緒に糸魚川へ留学していただけるような方策はやっぱり必要だと思ひますが、この辺に関して先ほど孫留学、孫ターンも含めて研究したいと言っておられたんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

外から市内の学校へ来ていただくというのは、いわゆる移住、いわゆる人口減対策としては、1つの方法かなと思ひております。やはり外から来ていただくためには、市内の学校の魅力づくり、そういったものが非常に重要になると思ひておりますので、そういった学校づくり、そういったものも含める中でそういったことを進めていければと。その、多分よい例が海洋高校でないかなと思ひております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

学校の魅力、3校あるんでその辺も含めて、今、白嶺高校も取り組んでいるんですが、この辺は今どの辺まで進んで、6月にはもう集約したいと言われとるんですが、その辺のスケジュール的なものだけでいいんで、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今、3校に魅力づくりの補助金の要項を説明いたしまして、特に白嶺高校については、今、準備を進めておりまして協議を進めております。なるべく早目に、7月をめどに段階的に進めたいというふうに思っておりますし、今、海洋高校や糸魚川高校では、補助金の使い道について審議をしている最中でありまして。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

これは地方創生特別委員会でもやってるんで、7月をめどと。やっぱり先ほども伊藤議員からありました伊那市でやってる、教育がやっぱり魅力なれば人も移住・定住しない、その辺だと思っ
+
んですね。息子さんたちが都会へ出ててなかなか戻ってこない。そうなってくると孫留学、孫ターンを研究するということなんですが、いない方を他人の孫を育てようと、他人の孫だ、たまごだそうなんです。それで千葉の柏市ですか、これもたまご事業、そういう形で里親制度を使うのではなく、留学みたいのを条例みたいな。海士町でやってる島親、親になっていただいてやっていく制度、その辺を私は必要だと思うんですわ。それに結びつけていけるようなプロジェクトチームみたいなのを必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほどそれについては、研究をしていきたいと申し上げました。その大きな理由は何か、我々今、聖学院が30年以上なるわけでありまして、今、取り組んでおります。その中でやはり農家民泊をしたいとか、農家がやっぱりその農業の現風景なりを自分たちの体験をしたいという形であるんですが、なかなか毎年毎年、受け入れ農家がないわけでありまして。そういうことを考えたときに何を目的に来られるかもあるんですが、やはりなかなか今、受け入れてくれる対応をするところが一番難しいとこで、その魅力がなかったら、ただ単に来いといってもなかなか難しい部分でありますので、そういったところを研究していかなくはいけないなと思っておる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めて他人の孫、たまごも含めて研究していきたいと思っておりますし、やっぱり夏休みとかそういう休みのときに中学生、高校生、じいちゃん、ばあちゃんの世代がいろいろな形で学校教育支援とか子供向けの講座だとかいろいろな形でボランティア団体も含めて橋渡ししてるということを聞いておりますので、その辺も含めてぜひやっていただきたいなところ思っております。

それと、プロジェクトの関係で、先ほどそういう、市長は誘致は考えてないということをおたんですが、やっぱりいろいろな形、専門家ですね、必要だと思うんですが、プロジェクトマネジャー、市全体を見て外部の方を糸魚川の感覚、民間からどう見るのか、その辺のマネジメントを総合プロデュースできるような人が糸魚川には必要だと思うんですが、企業である程度いろいろな形で世界、全国を見ての方々をスカウトしていく形も必要だと思いますし、国・県の商工農林には何名かいらっしゃいますが、そういう方々も私は一本釣りやそういう補助金制度も使ってやっていくべきだと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当市においてもプロジェクトマネジャーとはいきませんが、外部人材の活用という、そういう面ではファシリテーターであったりいろんな計画の作成支援など、そういったところで協力をいただいております。

ただ、基本的には、やはり糸魚川市のことを一番よく知ってるのはここに住んでる人だと思っておりますので、まずは市内で適任者がいないかどうか検討し、不足する部分については、やはり外部人材の活用というのも重要なことかなと思っております。

それと今、地方創生の中でも人材支援制度というのかなり充実してきておりますので、そういった制度の活用も視野に入れて検討のほうはしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

私はやっぱり地元の方は糸魚川のことを私は知らないと思うんです。よそ者、若者、ばか者でないですけど、やっぱり外から、外部人材ですわ。自分たちはどうかと、一番知っとるのは糸魚川の人でないと思います。そういう面を含めればプロフェッショナル人材ですか、ちょっと口回らないですけど、プロフェッショナル人材、地方創生でもありましたが、その辺のコーディネーターも含めて、ぜひ誘致も含めて全国公募でもないですが、その辺ぐらいいまで広げて一本釣りでないです

が、していただきたいと思うんですが、その辺の考えはやっぱりないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

私は糸魚川市のことをよく知ってるのは地元の人だと思っております。

ただ、じゃあ全国のことを知ってるかということ確かにそうでない部分もあるかと思えますし、本当に専門的な特化した部分、そういったところは外部人材の力をお借りするというのは、それも大切なことでないかなと思っております。

ただ、やはり何をしてもらおうかというそういったところが非常に重要な部分だと思っておりますので、そういったところで必要となる人材があれば検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

話絡み合わないんで、私はやっぱり外部人材、専門家も含めてターゲット絞って誘致するべきだところ思っております。

それと兵庫県の豊岡市、これコウノトリのまちで知られとるんですが、コウノトリだけじゃ食っていけないということで人材を募集して、権現荘でないんですけどインバウンド観光、外国人宿泊者をふやし、世界に打って出てるんですよ。温泉をどうするかということで、ロンリープラネットとか、ウェブサイトで英語対応できるインフォメーションセンターとか、ミシュランガイドに載せるだとかいろいろな形でインバウンドをやるとしたらやっぱりそこだと思っておりますわ、いろいろな形で攻めるのは。ここはターゲットを絞ったのは温泉ですけど、そういうターゲットをそれぞれ専門の人を充てていくような形は、私は必要だと思っております。

それと、午前中に渡辺議員からありましたように、大地の芸術祭で各国から人を呼んで観客が51万人いる。これもJTBも利用しながら連携してる。今の匠の里が悪いというんでないですけど、やっぱり大地を利用して芸術祭、そんなお金かけなくてこの糸魚川をどうして、山もあり、海もあり、瀬戸内海の芸術祭、それをプラスした十日町妻有と一緒にの形で、その2種類をできるところは私は糸魚川だと思っておりますし、その辺も含めて考え方教えていただきたいと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

観光振興において民間人材の活用というのは、1つの視点としては重要だと思っております。当市におきましても昨年、大手商社また大手旅行会社とそういったことができないかという具体的な

調整を進めてまいりましたが、実際なかなかミスマッチということで実行には至りませんでした。DMOを進める中で、来年度、観光庁が観光振興を通じた地方創生に取り組む市町村に対し、専門的なノウハウを持つ民間の人材を派遣するという観光版地方創生人材育成制度の検討を始めたというようにお聞きしております。こういったことも視野に入れながら観光振興に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

大地の芸術祭系魚川版でないんですが、私は世界各国から何十カ国のアートの人を呼ぶ、そこまでは必要ないと思うんです。各谷々にやっぱりそれぞれのアート作品ができる人を呼ばって、地域住民とふれあいでできるような、それで女性が交流できるような系魚川にしていきたい。それジオパーク、ジオサイトも含めながらできると思うんで、その辺も含めて考えてもらいたいと、こう思っております。

それと、子どもゆめ基金系魚川版、これは考えてないと言ってるんですが、平成27年3月に竹田教育長は、夢を描き、夢を育てると夢を見せさせること、そういう可能性を、これらをすることによって可能になってくる。そういうふうなことも考えており、少し研究させて、研究もどっかへ飛んでいったような話なんですが、私は燕市みたいに1億近い寄附金が集まって、それに学校だとかいろいろな形で整備できる、私は必要だと思う。企業からもらったり、各団体とかいろいろな形で、それは必要だと思うんですが、その辺全然研究もぶっ飛んでいったんでしょうか。お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

基金については、やはりその目的と活用というのがしっかりする必要があるんだろうなと思っておりますので、その時々状況に応じて考えていきたいと思っております。

ただ、燕市の子どもゆめ基金のようにその資金の集め方についてイベント入場料の一部を基金の財源とするなど、やはりそういった参考とする部分というのは非常にあるのかなと思っておりますので、そういった点については、今後検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ参考にすることをピックアップしながら全国規模でいろいろな形で先進事例を集めながら、系魚川としてどういうことが子どもゆめ基金としてできるのか、やっぱり探って、研究は必要だと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

ちょっと飛ばしますが、2番目に入らせていただきます。

これも筒石・徳合地区の治山事業で建設産業常任委員会でもやってるんですが、今、3月議会から6月議会にして、初日の第1回目で中村建設産業副委員長がやっとなるんで、ダブって聞きませんが、この治山事業、27年間で初めて説明会をやったということで、12月8日、初めて説明、私はここは住民をやっぱりばかにしとるんじゃないかと。説明もしてないのに構築物をやってきたということは、やっぱりおかしいなど、疑問に思ったんで、住民から要請を受けて説明会を開いてもらったんですが、この辺やっぱりどう対応していくのか、それぞれ今度、斜面管理システムのサイレンと結びついていく個別の防災無線機との連携、中村議員もありましたが、無線機がうちにあるデジタル化、能生地区はデジタル化されて外のサイレンとか聞こえん場合もあるんで、その辺は雨・台風だとか冬期間の対応として防災室との関連で、個別無線機もシステムとの連携、その辺はマッチングできるかどうかお伺いしたいと思ったんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

まず、前段の設置当初の説明会がなかったのではないかというお話につきましては、昨年12月の住民説明会のときにも地区の皆さんからお話をいただいたところでありまして、それにつきましては、県のほうでも調べてみたんではありますけども、記録に残ってないということで地元のほうにはお話をお返ししたところでありまして、

それから、26年度から調査に入っていながら調査の内容について回覧板等で周知をしていたというところについては、やはり説明会を持つ時期が少し遅かったのではないかなというふうに思っております。その後、地元のほうからいろんなご意見・ご指摘もいただきました。それはしっかりと県のほうに伝えておりますし、県のほうも説明会を重ねるたびに丁寧な説明で住民理解を得やすいというふうな説明に周知していただいているなというふうに感じているところでありまして、

それから、2点目の斜面監視システムにつきましては、これも当初、県のほうは予定はしてなかったわけでありまして、住民の要望によりまして県のほうが設置をしていただけたという運びになりました。今、お話しのように通報体制はどうするのかということでございますけども、県が考えていますシステムにつきましては、市とまた地元といろんな角度から検討させていただきまして、防災行政無線もさることながら、回転灯だけでは防災担当のほうと連携できないということもありますので、監視システムが作動したときには、メールで担当課、それから防災担当、県のほうへメール配信されるように今システムの中で考えていただいているところでございます。

あわせて、きのう地元説明会の中からもあったんですけども、システムの試運転に際して地元のほうとしては、自主防災組織を使って避難訓練も計画したいというふうな前向きなご提案もいただいております。そういうところは大事にして、また巡視の内容についても県のほうからしっかりと指導を受けてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、安全対策協議会が設立されて、今の自主防災組織の関係で避難訓練もしていただけると。すばらしいことだと思うんで、今、調査やってるんですが、梅雨明けに発表するということなんですが、その辺の日程とか教えていただきたいのと、今回、補修工事をしている中で、当初は3,000万ぐらいで補修工事終わると言っておったんですが、追加されて1億100万円ぐらいということを知っています。今まだ3分の1エリアぐらいなんですが、そのふぐあいの箇所が900カ所プラスまた中段が200カ所以上ということを知っていて、ふぐあいだけでもいっぱいあるんですが、今、補修工事されてる、いっぱいコンクリートの山がすごい高くなってみすばらしいぐらいあるそうなんで、その辺もちょっと風吹きや危ないと思うんで、撤去してもらいたいなと。今後、どのぐらいランニングコスト、今、1億100万と言われてるんですが、これ全体考えれば今後のランニングコストどのぐらいかかるのか教えていただきたいと思いますが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、予定しております治山施設の補修、それから、地元の皆さんからお話をいただいております機能強化のところにつきましては、前にも答弁申し上げておりますけども、梅雨明けの時期を過ぎて機能強化するべきところがあれば工法検討したいというふうにお聞きしておるわけでありまして、それらの治山施設のランニングコストというのは、今のところちょっとわかっておりませんが、強いて言うなれば、のり面の監視システムを今回、県のほうから設置していただくわけでありまして、その運営経費といいますのは、年間60万ぐらいということで見込んでおりまして、これは今定例会の補正で予算計上をお願いさせてもらっておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

本当の今回で1億100万円ということで、今後のランニングコストどのぐらいかかるかわかりませんが、補修工事でなく、補修工事というのは現状維持なんで、先ほど言われた機能強化、やっぱり補強をしてもらいたいというのが住民の願いなんで、やっぱりそっちにシフトを変える必要があると思うんですが、この耐用年数も含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

地元の皆さんが不安に思われて、当初、県が予定しておりました機能維持の補修工事については、ぜひ機能強化を図るべく工事を検討してほしいという強いご意見をいただきました。先週の一般質問でも答弁申し上げましたけども、12月8日の説明会の後、早々に米田市長のほうで県庁

のほうへ出向きまして要望書を手渡してまいっております。農林水産部長に手渡してきております。それにはもう明確に機能強化を図っていただきたいという文言をつけ加えさせていただきました。また、その旨、口頭でもしっかりと要望してまいりました。その後、地元のほうでは、安全対策協議会を組織していただきまして、協議会からも米田市長に要望書をいただきました。

これも先週の一般質問にも答弁申し上げましたけども、住民の声をしっかりと届けてほしいということで、またさらに県のほうへ要望書を持っていっておるところでございます。県のほうとしましては、先ほどから言っておりますけども、機能強化するべきところについて、今、調査をしておりますので、その調査結果を待って、今後、工法検討に入るといこともお聞きしておりますので、県の振興局のほうと常に連携を図りながら、どういう状況になっているのかといことも含めて安全対策協議会のほうにもお話をつなげていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ米田市長からも大分、足を運んでいただいております。要望の折にも、ここには耐震基準がない、高さで130メートル、幅も含めて全国にはないそうなので、住民の安全・安心につながるような、不安を取り除くような、ぜひ全国のモデルケースといことでもいただきたいと思うんですが、その辺の考え、市長どうでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当然、我々といたしましては、採用する工法についてはいろんな基準があるものと捉えているわけではありますが、しかし、それを待ってのはなかなか工事が進まん部分については、効果のあるものを使っていくところがあるんだろうと思っております。それに対してどういう形で安全基準をつくるかというのは、非常にこれから、これは国で考えなくてはいけないものだろうと思うわけでございますので、その辺は国交省のほうにも、また働きかけをしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ国にもお願いしてもらいたい。

それで、県の横には国交省の同じ治山があるんですが、それを聞くとアンカーボルトの、国交省のほうは8メートルで、県のほうは4メートルと半分以下とかも聞いておりますし、これ全体で1万600トンがあるといことも聞いております。下に90世帯300人が住んでるんで、ぜひ国に早期にできるようにお願いしたい。

それと先進地は、この辺にもありますが、青海の玉ノ木にも何回か行かせてもらいましたが、や

っぱりつくりが違うんですね。

それと今、新幹線のトンネルの上の治山をやると何か違うような感じしたんで、27年も経過してるの不安でしょうがないということもお聞きしておりますんで、その辺も含めて工法検討も含めてやっていくということなんですが、その辺も含めてお伺いしたいと思うんですが、耐震、6、7にも耐えられて豪雨にも耐えられるようなものをつくっていただきたいと思うんですが、その辺、県に、国にお願いしたいと思うんですけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

五十嵐議員からのご指摘いただいている点については、まさにそのとおりでありますけども、今、筒石の横で国土交通省の大きなのり砕工があります。あれは昭和60年の1月に雪崩が起きまして、危うく人命にかかわる事故が発生しました。それを受けて整備されたものであります。

また、玉ノ木についても、これも国土交通省所管の関係で国土交通省と農林水産省の基準こそ現在は違ってるわけではありますが、筒石5.9ヘクタールの非常に広大な治山施設でありますし、本当に真下には大勢の方が毎日の営みをされているという状況でもあります。現在の修復工事が、とにかく途切れのないように1日でも早く1年でも早く引き続き修繕工事を行っていただくのとあわせて、機能強化という面で雨季の状況を見て判断ということでもありますけども、それも合わせて施工していくこととなりますけれども、そういった機能強化が必要な箇所が出ましたら、やはり何かモデル的な事業として展開ができないかということも含めまして、また県としっかりとその辺は一緒に検討していきたいというふうに思っております。

一番我々のほうで安心材料とすれば、地域の皆さんが自主防災組織とはまた別に安全対策協議会を自主的に立ち上げていただいたということは、非常にありがたいことだと思っております。事業主体が県ということではありますが、市議会の建設産業の委員会からも所管事項調査として現地へ出向いていただきました。県と市と地元がしっかりと連携を密にして、この事業を1日でも早く補修工事も完成させるというのが当面の目標であります。加えて、その機能強化のほうもまた梅雨が明けた夏には何らかのまた工法が検討されると思っておりますけれども、しっかりとまた地元へも情報を流していきながら今後の事業を進めて、安全・安心を確保していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

補修ではなく、補強を早期に完成していただきたい。日本のモデルケースとなるようにお願いして一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。